

土砂災害危険度

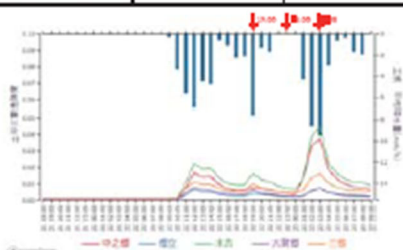
リアルタイムに可視化

オリコンサル 八丈町で評価実験

オリエンタルコンサルタンツは、数値標高モデルと気象庁の配信する降水短時間予報を使って時々刻々と変化する

土砂災害危険度をリアルタイムに可視化するシステムを、ハレックス（東京都品川区、藤岡浩之社長）と共同開発し

時々刻々と変化する危険度の変化



た。同社が防災行政の支援に取り組み、京都八丈町で1日から同システムの評価実験に着手しており、検証事例を蓄積していくことで、より精度の高い予測システムとして発展させていく。

このシステムでは、降水短時間予報は1キロメートル単位、数値標高モデルは10メートル単位を使用し、細かな地形による水の集まりやすさや、雨の降り方など、場所によって異なる土砂災害発生危険度の時間変化をより細かく可視化できる。

簡易的な地下水モデルによる水位を使った斜面安定計算で危険度を評価し、それを15時間先までは1時間間隔で表示する。この間、時々刻々と変化する危険箇所が10メートル単位で可視化されるため、特に配慮が必要な保全対象に対する直接的な避難の呼び掛けなど、従前以上にきめ細やかな防災行政への活用が期待されるとしている。